

第1学年 美術科学習指導案

日 時 平成28年11月9日(水) 5校時  
 対 象 1学年3組(男子18名 女子17名 計35名)  
 場 所 第一美術室  
 指導者 小山田 勉美

1 題材名 パッとわかる！ピクトグラムで賢治のゆかりの地を紹介

2 題材の設定について

(1) 題材について

本題材は学習指導要領の第1学年の目標(2)「対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。」を主なねらいとし、A表現(2)イ「他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。」とA表現(3)ア「形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。」及びイ「材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。」に基づいて設定した題材である。

今年度は、岩手県で国体が開催され、県内外から多くの選手団や応援団が訪れ、岩手のよさや文化をアピールする機会に恵まれた。また、県内各地に設置された競技会場から、どの地域でどのような競技がなされているか図案化されたマークなども目にする機会があった。そこで、本題材では、自分の住んでいる地域や文化(今回は普段から慣れ親しんでいる『宮沢賢治』に焦点を当てる)を、ピクトグラムで表現することを通して、伝達のデザインの基礎を学ぶことをねらいとしている。郷土のよさに関心を持ち、他者にそれらを伝えるためのデザインをすることは、郷土に対する理解を深めるきっかけになると考える。また、対象をピクトグラムで表現することは、形の単純化や強調、色数を限定した効果的な配色を考えるため、生徒に中学校学習指導要領A表現(2)イの視点を意識させる学習活動を期待することができる。その際、B鑑賞(1)アと関連させ、感じ取ったことを発想や構想に生かし、表現が深まるようにしていきたい。

(2) 生徒の指導にあたって

生徒について	授業に当たって
ア 指導対象全体について 美術の学習への意欲的で表現活動への関心も高い。普段から、対象をじっくり観察してスケッチを行い、自分にあった表現方法を考え、意欲的に制作できる生徒が半数以上いる半面、構想を練ることや思い描いているように表現できずに、意欲が続かない生徒も少数いる。	ア 授業全体の指導の視点から 花巻の象徴であり、小学校時代からも学んできた宮沢賢治について考え、郷土に対する理解を深めさせる。その際に、宮沢賢治のおすすめ観光スポットに目を向けさせ、誰に何を伝えるかという目的と形と色彩の調和を考えさせるようにする。伝えたい内容において何が重要なのかを整理し、他者にわかりやすく構成していくことをピクトグラムの制作を通してつかませたい。
イ 支援を必要とする生徒について 実際に他県で使用されているピクトグラムを提示し、何を表現しているのか答えさせ、ピクトグラムの効果を捉えさせる。制作の過程で、アイデアス	イ ユニバーサルデザインの視点から ① 共有化・・・生徒同士の考えの交流や、教え合いの機会を設定する。<生徒指導の機能> ② 視覚化・・・学習内容について口頭説明に加え、板書

ケッチについてグループで話し合い、仲間からのアドバイスを元に構想の糸口となるように協働的な場面をとり入れる。	や絵写真などを活用する。 ③時間の・・・授業全体の見通しを時間とともに示構造化す。
--	--

### 3 題材の目標

- (1) 郷土のよさをピクトグラムで伝えることに関心をもち、分かりやすく伝達するためには何が必要か考えながら、主体的に表現や鑑賞をしようとする。【美術への関心・意欲・態度】
- (2) 伝えたい内容について、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練る。【発想や構想の能力】
- (3) アクリル絵の具の特性から、用具の生かし方や制作の順序などを考え、見通しをもって表現する。【創造的な技能】
- (4) 伝える目的と形や色彩などの美しさの調和、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げる。【鑑賞の能力】

### 4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>表現</b> 関①ピクトグラムの目的や役割を意識し、自分のイメージを明瞭簡潔に伝えるピクトグラムを考え、表現しようとしている。 <b>鑑賞</b> 関②既存のピクトグラムや友達の作品を意欲的に鑑賞し、形や色彩の工夫などのよさを感じ取ろうとしている。	<b>発①</b> 他者の立場に立って、宮沢賢治の観光スポットやそのイメージなどの伝えたい内容を、形の単純化や強調、対象にあった色彩などを基に、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	<b>創①</b> アクリル絵の具の特性から、用具の生かし方や制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現している。	<b>鑑①</b> 伝える目的と形や色彩などの美しさの調和、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げている。

### 5 題材の指導と評価計画（7時間）

過程	主な学習活動	評価の観点				評価方法
		※箱囲みは主に評価する観点の評価規準				
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
第1次 課題の把握 (1時間)	1 鑑賞と課題の把握 ●ピクトグラムを鑑賞する。 ●ピクトグラムの目的や機能について考える。 2 発想 ●花巻の象徴である「宮沢賢治」から表現対象を見付ける。 ①探す・・・宮沢賢治と関連するものを挙げる。 ②考える・・・グループでピクトグラムにできる施設やゆかりの地などを考える。 ③決める・・・表現したいものを決める。	<b>関②</b>	<b>発①</b>			ワークシート

第2次 発想・構想 (3時間) 本時2/3時	3 アイデアスケッチ (構想) ●イメージするものを形や色を工夫して表し他者に伝わるデザインを考える。 ・形や色についていくつかのパターンのアイデアを出させ比較して考えさせる。	関①	発①			アイデアスケッチ 観察
	4 鑑賞と交流 (本時) ●グループでアイデアスケッチを見せ合い意見を付箋に書いて貼っていく。 ・他者の立場に立ったとき、分かりやすいものとなっているかという視点で意見を交流させる。 ●他者に伝わるデザインとして優れている点をグループ毎に発表し、全体で共有化する。 ・単純化や強調といった視点の他に、生徒が見出した価値を共有し、よりよいデザインづくりの視点としていく。	関②			鑑①	アイデアスケッチ 発表の様子 ワークシート
	5 アイデアスケッチの吟味・修正 ●前時で鑑賞したアイデアスケッチを基に、自分のアイデアスケッチをより良いものに工夫する。	関①	発①			
第3次 制作 (3時間)	6 制作 ●色を決めて彩色する(3色までと限定する) ・アクリル絵の具の特性を生かし、むらなく均質に彩色するためのポイントを捉えさせる。 ●ピクトグラムの紹介文を書いて、ピクトグラムのコンセプトを伝える。	関①		創①		作品 ワークシート
第4次 鑑賞 (1時間)	7 鑑賞 ●プレゼンテーション ・作品を用い、そのコンセプトなどを伝えながらプレゼンテーションする。	関②			鑑①	観察 ワークシート

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・ アイデアスケッチから、伝える目的と美しさの調和、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、自他のアイデアスケッチに対する思いや考えを説明し合うなどして、分かりやすいピクトグラムの見方や感じ方を広げる。

### (2) 指導の構想

- ・ 対象の特徴をとらえ、「目で見える言葉」＝ピクトグラムの役割を理解して意見を出させる。
- ・ アイデアスケッチについて、同じ内容でも作り手やグループ内での話し合いにより、工夫できることを共有化させる。
- ・ 意見の交流を図ることで、自分の制作の振り返りや参考となることに気づかせる。

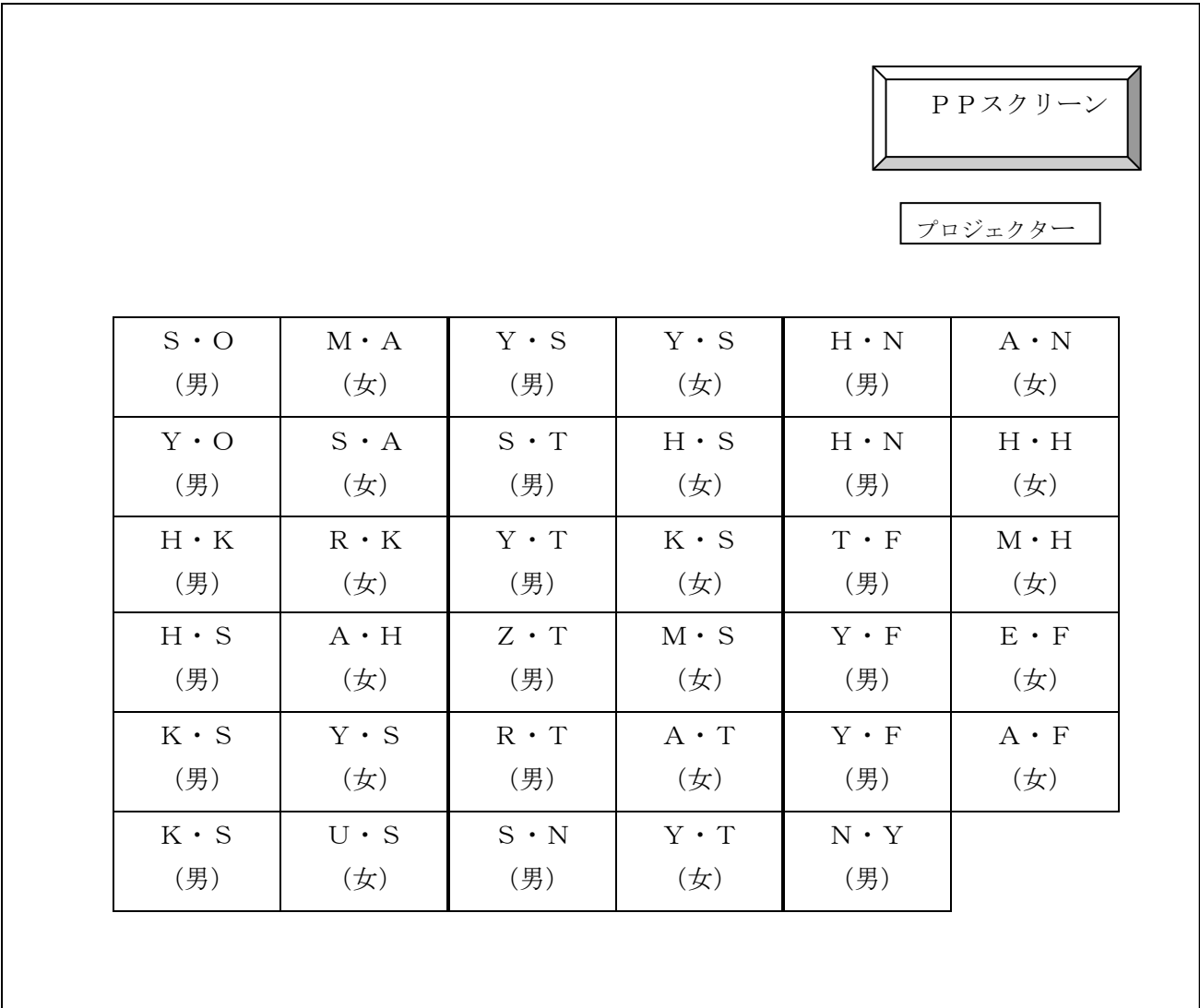
### (3) 本時におけるユニバーサルデザインの主なポイント

- ・ 共有化・・・生徒同士の考えの交流や、教え合いの機会を設定する<生徒指導の機能>
- ・ 視覚化・・・学習内容について口頭説明に加え、板書や絵、写真などを活用する<ICT機器の活用>

(4) 本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点と評価◆	UDの視点
導入 4分	1 学習課題を設定する。 (1)前時の学習を想起する。 (2)学習課題を設定する。	・前時の振り返りを基に、さらによりよいものにするための本時のゴールの見通し(分かりやすく伝わるピクトグラムの特徴を見付ける)と、学習活動の見通し(鑑賞して学び合う、アドバイスし合う等)をもたせ、学習意欲を高める。	<視覚化> 前時までには生徒が見付けたピクトグラムの特徴を板書に位置付け視点として活用できるようにする。
学習課題      パッとわかるピクトグラムにするために意見交換しよう			
展開 38分	2 グループでアイデアスケッチを鑑賞し、感じ取ったよさを交流したり、アドバイスし合ったりする。(16分)  3 グループで紹介したいアイデアスケッチを選び、分かりやすく伝える理由を見出す。(8分)  4 グループ毎に選んだアイデアスケッチを全体で交流し、よさを共有する。(14分)	・誰にでも伝わるかという視点でよさや課題を見付けさせる。 ・感じ取ったよさやよりよくするためのアドバイスを付箋に記入させ、発表者にフィードバックさせる。  ・グループ活動がスムーズに行われるように、役割分担する。 (分担：司会、発表、まとめ、書記)  ・紹介したいアイデアスケッチのよさを、形や色彩といった共通事項の視点と関連させて見出していけるよう、まとめる用紙の項目を工夫する。  ◆評価(鑑賞の能力) 伝える目的と形や色彩などの美しさの調和、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げている。 <b>【観察、付箋、学習シート】</b>	<共有化> 生徒同士の考えの交流や、教え合いの機会を設定する。 <時間の構造化> それぞれの時間を明示し見通しをもたせる。(キッチンタイマー使用) <共有化> 書き込む文字の大きさを指定し、誰にでもわかるように項目で紙板書の色を区別させる。(紙板書使用) 形→黄色 色→ピンク その他→青
終末 8分	5 学習の振り返りをする。 (1)アイデアスケッチに加筆する。 (2)自己評価等を記入する。	・全体交流から、誰にでも伝わるという視点で見付けたよさを自分の作品へ活かすことができるよう、加筆させる。 ・ワークシートへ気付いた事や次の制作への意欲などを記入できるよう振り返りをさせる。  ◆評価(関心・意欲・態度) 既存のピクトグラムや友達作品を意欲的に鑑賞し、形や色彩の工夫などのよさを感じ取ろうとしている。 <b>【観察、学習シート】</b>	

6 配置図 (学習環境の工夫について)



7 板書計画

